

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577100302		
法人名	社会福祉法人慈光福祉会		
事業所名	グループホーム太陽の家		
所在地	山口県周防大島町久賀5377-1		
自己評価作成日	平成26年7月23日	評価結果市町受理日	平成26年21月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年8月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

温暖で海も山も近くにあり、自然環境に恵まれている。特養との併設のメリットを活かし、行事等については共同参加が可能である。室内も職員も明るく、ホームの周りには畑や花壇があり、玉葱や芋を植えて収穫の喜びを分かち合ったり、花を育てて、食堂に飾り季節感のある生活を楽しんでいる。気候の良い時期にはドライブに行ったり、また、一年に1回家族との交流を持っている。また、隣接地に山中クリニックがあり、医療面も充実している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

協力医療機関を主治医とされ、定期的な訪問診療があり、緊急時や重度化した場合など適切な医療連携が取られており、利用者、家族が安心して生活が送られるように支援されています。重度化した場合は法人の病院や他施設への移設など関係者との連携が図られています。職員同士のチームワークが良く取れており、利用者と職員の和やかな会話や笑顔があり、利用者の人格を尊重した対応を共通認識され、敬意を持って支援されています。食事は法人の配食を利用しておられますが、毎日の朝食と週2回の昼食は利用者の希望を取り入れた献立で、利用者と一緒に調理をされ、誕生日にはお祝い膳で華やかな工夫をされるなど、一人ひとりのペースに合わせて自分で食べる楽しみを取り入れておられます。家族交流会は戸外で年1回計画され、外食を楽しみながら、利用者、家族、職員の親睦を図り、意見や要望を聞く機会を設けておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を提示して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示し、理念の共有を図り、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所自体が地域の一員として日常的に交流できていない。	利用者は散歩時に地域の人と会話を交わしたり、町の敬老会に参加している。ボランティア(ゆる体操、フラダンス、三味線、唄、踊り、ギターやチェロの演奏など)の来訪がある他、併設の特別養護老人ホームに来訪した保育園児の遊戯や歌の見学、法人の納涼会に参加している。中学生の体験学習や医療セミナーの学生、社会人の施設見学などを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人に向けては活かしていない		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員で項目を分担し、実施している。また、評価結果については改善に取り組んでいる。	管理者は自己評価及び外部評価を実施する意義を職員に説明し、職員は自己評価するための書類に項目ごとに分担して記入し、計画作成担当者がまとめたものを管理者と職員が話し合い作成している。地域とのかかわり方や外出について職員で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事、現状を報告し、頂いた意見をサービスの向上に活かすようにしている。	新たにメンバーに有識者を1名加え、2ヶ月に1回開催している。事業所の実情や取り組み、行事報告、外部評価の結果など報告し、話し合いをしている。避難訓練や研修のあり方、家族会の開催日などについての意見があり、改善について検討しているなど、意見をサービス向上に活かすようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町との連絡は密に出来ていないが、相談したり助言は受けている。ホーム便りを作成したときは送っている。	町担当課とは運営推進会議時や電話の他、介護保険申請時に直接出向いて相談して助言を得たり、情報交換しているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について苑内研修等で学び、しないケアに取り組んでいる。玄関は施錠しない方針ではあるが現在では、安全のため、ほとんど施錠している。	職員は研修で身体拘束について学び、拘束や抑制をしないケアに取り組んでいる。玄関は利用者の状況により施錠することもあるが、職員会議で話し合い、開錠の工夫に取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内研修があり、そこで学び全職員が防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はあるが、それらを活用する機会がない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	最初にご家族の方に十分なせつめいを行うようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、運営推進会議、家族会などで、意見や要望を聞き反映できるように努めている。相談、苦情の窓口及び第三者委員会を明示し、苦情解決の手続きを明確にしている。	契約時に苦情の受付体制や処理手続きについて家族に説明している。第三者委員会を設置し、意見箱を玄関に設けている。電話や面会時、年1回の戸外家族会で食事をしながら利用者と家族、職員の交流を通して意見や提案を聞く機会を設けている。事業所だよりで職員が一筆添えて発送しているなど、意見や要望が出やすいように工夫している。運営に反映させるまでの意見は出ていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職員会議にて意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	管理者は月1回の職員会議で職員の意見や提案を聞いている他、日常の業務の中で聞く機会を設けている。夜勤と休日の取得方法の工夫、勤務時間の開始時刻を15分早めて勤務体制を変更するなど、職員の意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は他業務で多忙なため勤務状況の把握は出来ていない。管理者が全てにおいて把握している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が職員一人一人のケアの実際と力量を把握し、研修を受ける機会を確保している。	外部研修は、勤務の一環として参加の機会を提供している。認知症介護実践者研修はほぼ全員が受講終了の他、グループホーム職員研修や施設の大規模災害対策研修等に参加している。研修終了後は資料をコピーし、供覧できるようにしている。法人内研修は年2回(5月、11月)併設の特別養護老人ホームと合同で、アロマの香りでリラックス認知症予防、職場の教養、食中毒予防研修、高齢者虐待防止の基本等、やまびこ苑身体拘束委員会設置要綱等、感染症予防研修(ノロウイルス他)、褥創予防と管理、事故防止研修と移乗演習をテーマにして実施し、夜勤帯以外の全職員が受講している。	・計画的な内部研修の検討
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩柳地区の研修で他事業書との交流研修をして学びサービスの質の向上に努めていたが、その機会が少なくなった。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に話を聞き困っていること、不安、要望等に耳を傾け、本人の安心を確保、信頼関係作りに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から話を聞き困っていること、不安、要望等に耳を傾け信頼関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極めた対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごし、話をしたりいろいろな習慣を教わったりしながら暮らしを共にする家族のような関係を気づいている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等に参加していただいたり、面会に来られたときには様子を話している。月に1回近況報告を送って家族との絆を大切に、共に本人を支えている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人には自由に面会に来ていただき関係がとぎれない要支援に努めている。なじみの場所にはなかなか行くことが出来ない。	知人や友人、家族の来訪の来訪がある他、家族の協力を得て、寺参りや外出、外泊、馴染みの美容院の利用や町の敬老会への参加など、馴染みの人や場との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	最近は顔を見ると口論になり一人で過ごす方を好まれる方もおられる。利用者同士の関係は把握している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も関係性を大切に、相談や支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを伝える方々に対しては、傾聴し、意に添えるよう努力している。一方思いを伝えることが困難な方には、意を察するよう努力している。	センター方式のシートの活用や日常の会話の中で本人の言葉を聞き取って記録し、一人ひとりの思いの把握に努めている。困難な場合は本人の表情や動作から汲み取ったり、家族から聞きとり、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにセンター方式を取り入れ、家族の方にも記入をお願いしている。また、本人との日常の会話野中からこれまでの生活歴の把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の現状を把握し、その日の状態で可能な力を発揮出来るように支援している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度サービス担当者会議を開き、現状に即した介護計画を作り、家族には介護計画書に希望事項などを記入してもらっている。	入所者生活状況、引き継ぎ事項の記録、日別評価表、独自のモニタリング表を作成し、利用者を担当する職員と計画作成担当者を中心に、3ヶ月に1回サービス担当者会議を開催して話し合い、介護計画を作成している。月1階モニタリングを実施し、半年毎の見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の日々の様子を記録し、職員間で情報を共有している。また、その情報をふまえて、職員会議で介護計画の見直しをしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズにその都度対応できるように心がけている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ゆる体操の指導に毎月ボランティアで来てもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関が主治医となっており、内科の往診が週2回ある。毎日バイタルを測定し、体調に変化があれば、かかりつけの主治医に相談している。	協力医療機関をかかりつけ医としている。定期的な訪問診療の他、家族の協力を得て、他科受診の支援をしている。併設の特別養護老人ホームの看護師の協力を得ている他、緊急時や夜間はかかりつけ医の24時間体制があり、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	新たに外傷が見つかったり、体調の変化が見られたりしたときは、すぐに隣接の特養の看護師に相談している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時病院側に利用者の状態を説明している。また、その後は見舞いに行ったりして回復の状態を知り、退院支援に結びつけている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の事を考え、現在すべての入所者に併設する特別養護老人ホームの入所申し込みをして頂いている。	契約時に重度化した場合の事業所でできる対応について家族に説明し、重度化対応についての同意書を得ている。実際に重度化した場合は本人や家族、かかりつけ医と話し合い、法人の医療機関への入院や併設の特別養護老人ホームへの移設などの支援をしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	転倒などの事故が起こったときは事例記録を作成し、原因を探し、対応策を話合っている。服薬介助の前は薬を再々確認し、誤薬を防ぐように努めている。行方不明を防ぐため、玄関にはセンサーを取り付けている。応急手当等の定期的な訓練は行っていない。	ヒヤリハット報告書、事故報告書に、一人ひとりの発生時の様子を記録し、職員で話し合い、改善策を検討し、事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応の定期的な訓練は実施していない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の特別養護老人ホームと合同での避難訓練とホーム独自の避難訓練を行っているが、地域との協力体制はできていない。	併設の特別養護老人ホームと合同で避難訓練を実施している他、事業所独自で夜間を想定した避難訓練を実施している。法人で自家発電機を備蓄管理している。運営推進会議で地域との協力について話し合っているが、協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の話にあわせて会話をし、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けを心がけている。また、同じ事を繰り返し話される入所者や事実と異なる話をされる入所者に対して無視や否定をしないように気をつけている。	職員は法人内研修で人格の尊重とプライバシーについて理解しており、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分から話をあまりされない入所者に対しては、こちらから積極的に話しかけ、本人の希望を少しでも聞くことが出来るように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が時間に追われていることが多く、職員側の都合を優先してしまうことがあるが、入所者の訴えに出来るだけ早く対応できるように努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来ない人に対しては、髪をとかしたり、おしぼりを用意し、自分で顔を拭いてもらったりしている。また、化粧水が必要な人に対してはそれを揃えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	火曜と木曜の昼食は、入所者から希望を聞いて献立を作り、ホームで調理している。なかなか食事作りの手伝いはできないので、できることがあればしてもらっている。食事前のテーブル拭きをお願いしている。	毎日の朝食と週2回(火曜・木曜)の昼食は利用者の希望を聞いて食事づくりをしている。それ以外は併設の特別養護老人ホームからの配食を利用している。朝食は利用者の希望で週2回パン食、昼食づくりは利用者と職員で一緒に調理し、利用者は下ごしらえ、テーブル拭き、トレイ拭き、茶碗洗いなどできている。利用者の誕生日はお祝い膳で華やかな食事を楽しめる工夫をしている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで同じものを食べながら、職員は利用者一人ひとりのペースを大切に食事の支援をしている。喫茶行事(桜餅、月見団子、かき氷、フルーツポンチなど)、おやつづくり、年1回家族の協力を得て外食するなど、食べることが楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の点てた献立による食事により栄養のバランスをとっている。さらに食事、お茶の時間に充分水分をとっていただき、あまり飲まれない方には、飲みやすくなる工夫をしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけをしたり、歯ブラシを手渡したり、その人に合わせた口腔ケアを行っている。中には拒否をされできない入所者もいる。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗、おむつの使用をできる限り減らせるように個々の排泄パターン、シグナルの把握に努め、声かけ誘導しトイレでの排泄を促している。歩行の不安定な方は夜間ポータブルトイレでの排泄を促している。	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を多めにしたり、腹部マッサージをしたりと個々に応じた予防をしている。薬に頼っている人もいるが、なるべく薬に頼らず排便を促すよう努力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の体調や希望に合わせて入浴が楽しめるように支援している。入浴したくない人には声かけのタイミングなど工夫している。	入浴は1日おきに13時30分から15時頃までの間、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援している。入浴したくない利用者には、言葉かけや時間帯を工夫してタイミングを見ながら、無理強いせず個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、睡眠に乱れのある人は原因究明、対応の検討を行い、支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルし、個々に応じた服薬の支援をしている。症状の変化については主治医に報告している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の下拵え、洗濯干し、洗濯たたみ、テーブル拭き、トレイ拭きなど個々の力を活かし、活躍できる場面作りをしている。	ぬり絵、切り絵、書道、計算ドリル、漢字ドリル、輪投げ、童謡を歌いながらの手遊び、新聞紙折り、広告折り、ゆる体操、テレビ視聴(のど自慢、相撲)、野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、トレイ拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみ、おしぼり巻き、箒で掃き掃除、雑誌を読む、併設の特別養護老人ホームの慰問見学の参加、誕生会でプレゼントを受け取る、季節行事(餅つき、初詣、節分、雛祭り、花見など)、院長からプレゼントのクリスマスケーキを食べるなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩など戸外に出たり、花見、ドライブなどの支援は行っているが、一人一人の希望にそって戸外にでかけられていない。	近所の散歩、地区の敬老会への参加、併設の特別養護老人ホームと合同で桜見、事業所独自の桜見、ドライブで初詣、家族会の親睦会(フラワーランド)、家族の協力を得て、馴染みの美容院の利用、寺参り、自宅訪問など、戸外に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は難しいため個々に所持できない。家族より預かり、金庫に保管している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話や手紙に応える形でやりとりがスムーズにいくように支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂に季節の花や採れた野菜を飾ったり、季節ごとの壁画を作り壁に飾っている。	玄関やリビングに季節の花を飾り、壁には行事の写真や利用者の作品を飾り、季節感を取り入れている。キッチン開放的で調理の音や匂いがして生活感がある。円形のテーブルを囲んで食事をしたり、団欒の場となっている他、畳の間にはテレビが置いてあり、洗濯物を畳んだりして、利用者が思い思いに過ごせる居場所の工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の横の居間があり、座ってくつろげるようになっているが利用する方は少ない。丸テーブルの椅子に座って過ごしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人との話し合いができないことが多いため、家族の方に家で使用していた物を聞き、それらを使用しているが認知症が進み混乱することが多く荷物は少ない方が多い。	使い慣れた寝具やクッションなど持ち込み、家族写真や自分の作品を飾り、居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー、手すりがつけてあり、安全に生活が送られるようになっている。また、トイレや部屋の入り口に名前を書いて自立した生活が送れるように工夫している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム太陽の家

作成日： 平成 26 年 9 月 1 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	14	研修を発表する機会が少ない。	研修で得たことを皆で共有し介護に活かす。	GH会議等で発表する機会を設ける。	1年
2	35	応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施が出来ていない。	職員全員が応急手当や初期対応ができるようにする。	職員が研修に行く(12/19) 研修内容を職員全員が把握する。 資料はコピーして各自が持つ。	1年
3	36	防災訓練で地域との協力体制が難しい。	地域の人に協力を求める。	運営推進会議で地域の協力をお願いする。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。